

マイナカード受診

コンピューター不具合 3割負担誤表示

医療機関でマイナンバーカードを使って受診の受け付けをした場合、患者が所得にかかわる情報の提供に同意しないと、本当は1〜2割負担なのに3割負担などと誤った負担割合が表示されるコンピューターシステムが一部機種にあり、医療現場が混乱しています。千葉県船橋市の船橋二和病院付属ふたわ診療所では、

(内藤眞日子)

同診療所は今年4月からカードリーダーを設置し、マイナンバーカードでの受け付けを始めました。すぐに問題が発生しました。「先月まで1割負担だった高齢者が次々に3割負担とコンピューター端末に表示され、驚きました。紙の

情報提供の同意
患者がカードリーダーを

赤旗 8/20

「保険証廃止はあり得ない」



マイナンバーカードのカードリーダーが置かれた船橋二和病院付属ふたわ診療所の外来受付に立つ近藤純さん＝千葉県船橋市

操作する様子を確認し、コンピュータシステム業者とやり取りするなかで、不具合の理由が分かりました。

カードリーダーにマイナンバーカードを置くとき、患者は本人確認の方法をはじめ、複数の項目で選択を求められます。ここで、「提供しない」を選択すると、誤った負担割合が表示されることがあります。

同診療所を受診する1日500〜600人の患者のうち、マイナンバーカードで受け付けるのは10人程度。それでも「個人情報を見られたくない」という心理が働き「提供しない」を選択する人が多いのだと思います」と近藤さん。

原因が分かっただけからはマイナンバーカードで受け付ける人に職員がつきっきりになり、限度額情報を「提供する」にタッチするようにお願いしています。

「大変な手間。一件の受け付けに2分はかかります。自己負担限度額を超える人は一部なのに「限度額情報の提供」に同意しないと正しい負担割合が出ないのはおかしい」。近藤さんは指摘します。

誤り気づけない

厚生労働省は、診療報酬の請求に使うレセプトコンピュータ（レセコン）等の一部でこうした不具合が発生しているとして、業者に改修予定などの情報提供を求めています。

同診療所が18日、レセコン業者に問い合わせたところ、9月に改修する予定と回答しました。マイナンバーカードでの受け付け開始から半年近く後です。

近藤さんは訴えます。「マイナンバーカードによる保険資格の確認は、さまざまな段階で問題が起きる可能性があります。分かっただけで、誤りに気づくことすらできません。保険証廃止はあり得ない。存続させるべきです」